

Ⅲ. 2027 年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

体育科学、コーチング科学学位プログラム 博士後期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員、または研究指導補助教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）		研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）	
-----------------------	---	-------------------------	--

■体育科学学位プログラム（コース毎・50 音順）

（体育スポーツ文化社会学コース）

教員名	研究指導領域
★ 教授 荻 浩三 修士（体育学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、体育史、スポーツ地理学
	「スポーツ史」 ① 一般研究領域（一般史） 「スポーツ通史」「世界スポーツ史」「時代別スポーツ史」「地域別スポーツ史」、など
	② 個別研究領域（特殊史） 「スポーツ競技種目史」「スポーツ思想・人物史」「スポーツ教育史」「スポーツ産業史」「スポーツ形態史」「スポーツ学説史」「スポーツ施設・用具史」「スポーツ技術史」など
★★ 教授 関根 正美 博士（体育科学）	研究分野：体育・スポーツ哲学
	研究内容のキーワード：スポーツ哲学
	スポーツ哲学 スポーツ哲学は「スポーツとは何か」「スポーツを行う人間とは何か」「スポーツが流行している社会とは何か」を考察する学問です。スポーツ諸科学の基盤となる真理の探究と同時に、オリンピック、ドーピング、科学・技術の問題、スポーツに関わる人間の心の問題などといった現実の具体的問題にもアプローチしていきます。具体的には以下の研究領域が考えられます。また、体育（教育）の哲学的問題についても可能です。
	・オリンピック、オリンピズムの思想 ・スポーツの実存哲学 ・スポーツ人間学（達成の人間学） ・スポーツ倫理学（ドーピング、フェアネスなどの問題） ・スポーツ緒論（身体論、遊戯論、時間論、科学論） ・スポーツ美学論、舞蹈論 ・日本のスポーツ哲学（禅、芸道など） ・諸外国（主に英米、ドイツ語圏）のスポーツ哲学
★ 教授 谷釜 尋徳 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、運動文化史、遊戯史、身体技法、技術・戦術史、伝統芸能史、旅行史、武術・武道史、オリンピック史、バスケットボール史
	スポーツ史とは、スポーツに関わる今日的な問題点に端を発して、それを解決しようとする手掛かりを歴史的な世界に見出そうとする学問分野です。研究指導領域の一例は、以下の通りです。
	・スポーツの伝播／受容／普及の歴史 ・スポーツの技術／戦術の歴史 ・スポーツの修練（練習・稽古）／コーチングの歴史 ・スポーツの用具／施設／産業の歴史 ・スポーツの人物／ルール／制度／学説の歴史

教員名	研究指導領域
★★ 教授 依田 充代 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：体育・スポーツ社会学
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ社会学
	スポーツ社会学
	スポーツ社会学はスポーツと社会の関わりを追及する学問です。また、スポーツの社会的現象を明らかにし、そこに起きる問題の解決をめざした研究を展開する学問でもあります。研究領域は多岐にわたりますが、具体的にいくつかの研究領域を以下に紹介しておきます。 ① スポーツ社会学の内容と方法 ② スポーツと薬物 ③ スポーツと暴力 ④ 社会規範とスポーツ ⑤ スポーツと政治 ⑥ スポーツと経済 ⑦ スポーツと環境 ⑧ スポーツとマスメディア ⑨ 学社融合 ⑩ スポーツ・ボランティア ⑪ スポーツ情報学 ⑫ 地域スポーツ など

（スポーツマネジメントコース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 齋藤 義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
	研究分野：スポーツマネジメント 研究内容のキーワード：スポーツのマネジメント、スポーツのマーケティング、スポーツ文化 スポーツに関係するさまざまな組織や、スポーツと社会の関係について、マネジメント（経営）の視点から研究を深めます。スポーツマネジメントには、スポーツを利用したマネジメントだけでなくスポーツ自体のマネジメントの側面があることを重視し、文化としてのスポーツの理解と推進を志向する研究を目指します。

（ハイパフォーマンス科学コース）

教員名	研究指導領域
★ 准教授 池田 祐介 博士（スポーツ医学）	研究分野： トレーニング科学・スポーツバイオメカニクス
	研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上、キネマティクス、キネティクス、パフォーマンス分析、レジスタンストレーニング
	競技パフォーマンスを向上させるためには、競技特性を明らかにした上で、競技に必要な要素をトレーニングによって戦略的に高めていく必要があります。本研究室では、スポーツバイオメカニクスや運動生理学の研究手法を用いて、競技に必要な技術や体力要素を分析し、得られた知見を基に効果的なトレーニング方法の開発に取り組んでいます。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 自転車競技におけるペダリングパワー向上のためのトレーニング法の開発: 効果的なペダリング技術を研究し、パワー向上に繋がるトレーニング法を提案します。 ② 下肢の関節トルク、パワーが跳躍動作に及ぼす影響: 跳躍動作における関節トルクとパワーの役割を分析し、パフォーマンス向上のためのトレーニング指導を行います。 ③ 競泳のスタート動作に関する研究: スタート動作の技術向上を目指し、最適な動作パターンとトレーニング方法を探求します。 ④ 効果的なレジスタンストレーニング法の開発: 筋力強化とパフォーマンス向上を目指したレジスタンストレーニングの効果的な手法を開発します。 これらの研究を通じて、アスリートの競技力向上に貢献することを目指しています。

教員名	研究指導領域
★ 教授 大石 健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルデバイス、GIGAスクール、DX、子ども、幼児、家庭環境、社会環境、生活習慣、運動習慣、体力、運動能力
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」、「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」と「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」の3つになります。全研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルデバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。 ③「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」 子どもの体力・運動能力または健康状態と生活習慣や生活環境との関連性について研究します。具体的には、幼児の25m走、立ち幅とび、テニスボール投げ等の記録や運動の好き・嫌い、風邪や怪我の頻度をアウトカムとし、家庭環境（家族構成・住宅様式等）、生活習慣（起床時刻・習い事等）、施設内環境（保育所や幼稚園・学校間等）、地域間（都市部・農村部等）との関連性について疫学手法を用い検討する研究となります。また、子ども達の日常における身体活動強度や身体活動量を定量化することも研究テーマとしています。現在は、継続測定を実施し体力・運動能力の変化量（率）をアウトカムにした研究を実施しています。これらの研究結果から二極化が懸念されている子ども達の体力・運動能力向上の方策を考えます。
★★ 准教授 大塚 光雄 博士（スポーツ科学）	研究分野：スポーツバイオメカニクス
	研究内容のキーワード：運動学、動力学、競技力向上、運動技能、トレーニング
	科学的なアプローチによって、アスリートにおける競技力向上や運動初心者における運動技能の改善をねらっています。現在、主に以下の2つのテーマに取り組んでいます。 ① 高度なデバイス（光学式ハイスピードカメラ、地面反力計、慣性センサーなど）を用いた横断的・縦断的なスポーツ動作の測定・評価 ② 大衆化されたデバイス（スマートフォン、スマートウォッチなど）を用いた運動技能の測定・評価方法の開発 フィールドから実験室まで様々な場所で測定を行い、国際大会で優勝する選手から運動嫌いな子どもまで幅広い運動パフォーマンスの分析を行っています。世界中の研究機関とのネットワークを活用しながら、前例にとらわれずに、スポーツ科学、社会に貢献することを目指しています。
★★ 教授 岡本 孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ生理学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス、コンディショニング、トレーニング、競技力向上、リカバリー
	運動・スポーツ生理学を基盤として、効果的な運動トレーニング法の開発やアスリートの競技力向上とコンディショニングに資する実践的な研究を行います。スポーツ現場に即した研究を進めて行く中で、トレーニングやコンディショニングに関する新しい理論体系の確立を目指します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 心血管系機能を指標としたコンディショニング法の開発 ② 運動・栄養・休養のタイミングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響 ③ トレーニング効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ④ パフォーマンス向上を目指した機能的食品（クレアチン、グリコーゲンなど）の効果的なローディング法の開発 ⑤ 戦略的リカバリー法の構築 国際的な視野に立って研究を進めたい（国際学会での発表、国際学術雑誌への論文の公表など）と考えている方を歓迎します。

教員名	研究指導領域
★★ 教授 菊池 直樹 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ遺伝学
	研究内容のキーワード：ストレンクス&コンディショニング、スポーツ遺伝学、遺伝子多型、競技パフォーマンス、筋力トレーニング、高強度インターバルトレーニング、運動と健康
	スポーツ遺伝学およびストレンクス&コンディショニングに関わる諸研究を行う。エクササイズによる身体反応や損傷に対するリスクの個人差を解明することで個人対応型のトレーニングおよびコンディショニング方法の確立を目指します。主な研究テーマは以下のとおりです。
	1、エリートアスリートの遺伝特性に関する研究 2、怪我およびサプリメント摂取の感受性に関する遺伝特性の研究 3、遺伝子特性を考慮したトレーニング戦略の開発 4、ストレンクストレーニングの効果を最大化するトレーニング変数に関する研究 5、Velocity based training (VBT)および高強度インターバルトレーニングに関する研究 6、中高齢者へのトレーニング介入研究
★★ 教授 杉田 正明 博士（学術）	研究分野：トレーニング科学、体力科学
	研究内容のキーワード：競技力向上、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング
	運動パフォーマンスを高めるトレーニングやコンディショニングに役立つ以下のテーマにおける実践的なスポーツ科学的研究を行っている。
	① 競技スポーツ選手のパフォーマンスと体力要因との関係に関する研究 ② 高地トレーニング、低酸素トレーニングに関する研究 ③ 運動パフォーマンスにおける暑熱、寒冷対策に関する研究 ④ 競技スポーツ選手を対象としたコンディショニングに関する研究 ⑤ 競技選手のパフォーマンス分析に関する研究
★★ 教授 須永 美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。
	特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★ 准教授 高井 秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：競技スポーツ、アスリート、ストレス、情報処理過程、心臓自律神経活動
	スポーツ心理学に関する基礎的研究を進めており、ヒトの身体活動に伴う情報処理過程や心臓自律神経活動を中心に検討しています。特に、競技スポーツにおけるストレス状況下でのアスリートの心理・生理的反応について明らかにすることを研究課題としています。
★★ 教授 西山 哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。
	② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。

教員名	研究指導領域
★★ 教授 黄 仁官 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、体力学、運動処方
	研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上サポート、運動処方と運動療法、加齢・老化、スポーツ遺伝子
	本研究室は、人間の身体能力（体力）、特にトレーナビリティを柱に、多方面からの基礎データの構築による新たな指標の提案及び運動・トレーニング処方の開発に係わる基盤研究を目指しています。 研究領域から理想としている主な内容は、アスリートの競技パフォーマンス向上・維持、それに係わるリスクファクターの原因究明及び改善に繋がる具体的トレーニング手法の提案・理論をスポーツ科学的実践研究として確立させることを研究の狙いとしています（関連して、子供の成長期における発達及び高齢者の健康寿命の為の運動を含む）。
★ 教授 柳沢 香絵 博士（生活科学）	研究分野：スポーツ栄養学
	研究内容のキーワード：スポーツ栄養学、コンディショニング、競技パフォーマンス向上、ジュニアアスリート
	アスリートの競技パフォーマンスの向上および健康の維持、ならびにスポーツ・運動を安全に行うための栄養摂取方法および栄養指導法の開発に資する研究を行う。 1. スポーツ栄養学的手法を用いたアスリートの競技パフォーマンスの向上およびコンディショニングの支援に関する研究 2. ジュニアアスリートを対象とした健全な発育と競技パフォーマンスの向上に資する栄養摂取および指導法に関する研究 3. スポーツ・運動実施時の安全性の確保に資する栄養摂取方法（例：熱中症予防のための食事や水分補給等）に関する研究

（健康スポーツ医科学コース）

教員名	研究指導領域
★ 准教授 阿藤 聡 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：トレーニング科学、運動生理学、骨格筋生理学
	研究内容のキーワード：レジスタンストレーニング、筋肥大、タンパク質代謝、多核体
	運動（筋収縮）による骨格筋の量・機能の可塑性機構、特にレジスタンストレーニング（いわゆる筋トレ）による骨格筋量の改善メカニズムについて分子・細胞レベルで理解することを目指して、実験動物や培養細胞など生物学的実験手法と研究グループで確立した実験動物のレジスタンストレーニングモデルを用いて研究を行っています。また、研究成果をアスリートの競技力向上へ利活用することや、加齢に伴う骨格筋量・機能低下（サルコペニア）の改善方法へ応用するための研究についても展開しています。修士課程では研究に必要な実験技術の習得、研究分野を理解するための論文読解力、データの処理・理解、実験により取得したデータを考察して新規の知見として論文化する為の能力を身に付けることを目指します。
★★ 教授 岡田 隆 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科、アスレティックリハビリテーション
	研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、筋腱複合体、除脂肪、減量、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、リカバリー、睡眠、体幹筋、ボディビル、柔道
	1. トレーニング科学領域 ① 限局的な筋領域に効果的なトレーニング方法の開発 ・領域特異的および長軸区画的な筋活動に関する研究 ・対象筋の筋活動を増強する内部意識集中に関する研究 ・体幹深部筋のトレーニング方法の開発 ② 高い筋出力を可能にする神経生理学的メカニズムの探索 ③ 筋と腱の関係が形態および機能に及ぼす影響に関する研究 ③ 効果的な体脂肪除去方法（除脂肪）の開発 ④ 睡眠と筋力トレーニングおよび除脂肪に関する研究 など 2. スポーツ整形外科、アスレティックリハビリテーション領域 ① 腰痛、椎間板変性 ② 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御 など

教員名	研究指導領域
★★ 教授 岡本 孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、健康生理学、予防体育学、健康運動学、健康増進学
	研究内容のキーワード：サクセスフルエイジング、ウェルビーイング、健康寿命、座位行動、ストレス、動脈硬化、認知症、サルコペニア、ヘルスプロモーション
	若年者から高齢者に至る全ての年代が生涯健康であることを目的に、心血管疾患、介護および認知症を総合的に予防する“総合型生活習慣病予防”を目指した研究を推進します。
	主な研究テーマは以下の通りです。 ① 総合型生活習慣病予防を目指したレジスタンス運動および有酸素運動法の開発 ② 健康増進効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ③ 骨格筋電気刺激トレーニングの健康増進効果の解明 ④ 筋、呼吸循環および認知機能の改善に向けた健康増進プログラムの開発 ⑤ 体力、呼吸循環および認知機能の加齢変化の関連探索 ⑥ 長時間座位やストレス誘発性動脈機能障害および認知機能低下予防法の開発 国際的な視野に立って研究を進めたい（国際学会での発表、国際学術雑誌への論文の公表など）と考えている方を歓迎します。
★★ 教授 奥田 拓史 博士（医学）	研究分野：スポーツ医学、ゲノム医学
	研究内容のキーワード：腎臓内科、遺伝統計学、GWAS、救急医学、医学教育、プライマリケア、Performing Arts Medicine（演奏芸術医学）、相撲、柔道
	スポーツという切り口から、音楽を始めとした舞台芸術もスポーツとして捉え、様々な事象の解明を目指します。当たり前と思っていることが、実は科学的に立証されていないことは意外に多いです。当たり前に行っていること、慣例として行われていることに、「なぜだろう」という疑問を持つのが研究の第一歩です。素朴な問いでもいいので、「なぜ」という気持ちを大切に、研究を進めていきましょう。各位の「なぜ？」を、Research Questionにすることで、始めましょう。新設の研究室のため、遂行中のテーマはありません。だからこそ、あらゆるテーマを研究課題として設定できます。研究指導者が興味をもっている分野は、下記の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。また、博士課程の大学院生には、積極的に学会発表・論文執筆をしていただきます。
	①スポーツによる腎機能への影響 ②腎不全患者におけるスポーツ ③スポーツと遺伝 ④音楽を運動という側面から捉えた研究 ⑤舞台芸術や対人競技における緊張について
★ 准教授 城所 哲宏 博士（教育学）	研究分野：発育発達学、運動疫学、公衆衛生学
	研究内容のキーワード：子ども、身体活動、座位活動、体力、生活習慣病、国際共同研究
	子どもを対象に、身体活動を通じた体力向上および生活習慣病予防に関する研究をしています。国内および海外における大規模コホート研究のデータを活用し、疫学的手法を用いて研究を進めています。主な研究テーマは以下の通りです。
	① 子どもにおける早期生活習慣病予防に関する研究 ② 子どもの身体活動・体力に関する国際共同研究 ③ 身体活動を促進させる環境づくりに関する研究
★ 准教授 鴻崎 香里奈 博士（体育科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学
	研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質筋ジストロフィー、代謝、実験動物
	スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が運動器の機能や構造へ及ぼす影響について検証をおこないます。実験動物（ラット・マウス）や培養細胞を用いた基礎研究、およびヒトを対象とした臨床研究の両方に対応可能です。実験動物や培養細胞による研究では、様々な実験手法の習得およびそれらを用いた実験研究を展開します。ヒトを対象とした研究においても、実験や測定に必要な手法の習得およびそれらを用いた介入実験や調査研究を展開します。研究テーマについては事前に相談した上で決定しますが、現在進行中のテーマは下記の通りです。
	・ 短期間の継続的なケトジェニックダイエットが運動器の機能および構造、全身代謝へもたらす影響を検証する ・ 筋ジストロフィーモデルマウスにおける神経・筋機能と構造異常を検証する ・ 運動誘発性筋損傷による神経損傷の作用機序を解明する ・ 培養筋細胞における特定遺伝子の発現変動が筋タンパク質代謝や構造へもたらす影響を検証する ・ がん悪液質モデル動物における神経の機能・構造変化を検証する 研究によって得られる成果は、幅広い年代を対象とした健康増進、およびスポーツ現場へ積極的に応用することを目指します。
教員名	研究指導領域
	研究分野：顕微解剖学、健康教育学

★ 教授 小林 正利 博士（医学）	研究内容のキーワード：骨格筋の組織化学、健康教育学、運動と糖、乳酸代謝
	健康維持・増進に関わる因子や環境について探索し検討しています。
	① 骨格筋の再生過程に関わる細胞の組織化学的検討
	② 運動と健康関連機能の検討
★★ 教授 齋藤 義信 博士（健康マネジメント学）	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。
	① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 教授 須永 美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。
	特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★ 准教授 田村 優樹 博士（学術）	研究分野：分子運動生理学、分子運動代謝学
	研究内容のキーワード：骨格筋、脂肪、メカノバイオロジー、ミトコンドリア、リソソーム、温熱刺激、サルコペニア、廃用性筋萎縮、トレーニング、リハビリテーション
	効果的なトレーニングやリハビリテーションの創出を見据え、分子生物学の手法を用いた基礎研究を実施しています。また、先端的な遺伝子工学や情報科学の技術を駆使して、骨格筋のエネルギー代謝を詳細に理解することを目指しています。研究を現在実施している研究課題は次の通りです。
	1. 運動や不活動、老化、疾患などに伴う「細胞/ 器官/ 個体の適応」と「分子メカニズム」の解明 2. 物理療法の「生物医学的根拠の構築」と「新規適応症の探索」 3. 新規栄養素材の「探索・有効性検証」と「トレーニング/ リハビリテーションへの応用」
★★ 教授 津山 薫 博士（体育科学）	研究分野：発育発達
	研究内容のキーワード：子ども、中高齢者、アスリート、運動能力、トレーニング
	① 身体運動や生活習慣が体力に及ぼす影響 ② 子どもの体力と運動との関係 ③ 中高齢者の体力と運動との関係、などがおもな研究指導領域です。
★★ 教授 中里 浩一 博士（学術）	研究分野：スポーツ生理・生化学、基礎スポーツ医学
	研究内容のキーワード：加齢、筋損傷、筋肥大、筋萎縮、動物・細胞モデル、遺伝子多型、筋タンパク質合成、筋タンパク質分解、細胞外マトリックス
	力学的刺激を含む幅広い外的因子への筋骨格系組織（骨格筋、腱、靱帯など）の生理・生化学的応答あるいは適応を分子・細胞・組織レベルで検討していくことを主なテーマとします。スポーツ生理、トレーニング方法、スポーツ損傷、スポーツ医学など応用的な展開を常に意識して研究を進めていきます。特に分子レベルでの検討を中心とすることおよび自分自身で手を動かしてデータを出してもらうことを求めますので、本研究室を希望する学生は相当の時間と労力を使う覚悟が必要です。その代わり得られるものも十分にあると思います。具体的なテーマは以下のとおりです。
	① 実験モデル（動物・細胞）を用いた筋損傷発生および修復過程の分子メカニズムの解析 ② 実験モデル（動物・細胞）を用いた随意あるいは不随意での筋力トレーニングに対する骨格筋適応の分子メカニズムの解析 ③ 加齢あるいは全身炎症に伴う骨格筋萎縮のメカニズム解明とその克服 ④ ヒト遺伝子構造の多型性が筋骨格系組織に与える影響の基礎的検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授 橋本 典生 博士（医学）	研究分野：医学
	研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、スポーツ喘息、呼吸機能
	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。
	主な研究内容
	① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3 系多価不飽和脂肪酸やn-6 系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性

（身体教育・健康教育コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 近藤 智靖 博士（体育科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、体育授業研究、教材・教師
	① 体育科のカリキュラム論 ・体育の教育課程における目標に関する研究
	② 体育科の学習指導論 ・体育の教材に関する研究 ・教師行動に関する研究
	③ 体育授業研究 ・体育における学習効果に関する研究 ・児童生徒行動に関する研究
★★ 教授 鹿野 晶子 博士（体育科学）	研究分野：学校保健学、発育発達学
	研究内容のキーワード：子どものからだと心、養護教諭
	子どものからだと心、それを支える養護教諭をテーマとし、日常的には、子どものからだと心に関する学校教育現場等での野外調査に従事しながら研究をすすめている。 主な研究領域は ① 養護教諭の職務と養護活動、保健室の機能 ② 学校保健 ③ 子どものからだと心の健康課題全般とする。
★★ 教授 鈴川 一宏 博士（医学） 博士（体育科学）	研究分野：ヘルスプロモーション、公衆衛生学
	研究内容のキーワード：生活習慣、運動習慣、防衛体力、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション、運動部活動
	本研究指導領域では、保健体育教諭および養護教諭が担うべき、子どもにおける体育・スポーツの意義、学校現場における健康教育、さらにはヘルスプロモーションに関する諸課題を対象とする。とりわけ、子どもの生活習慣や運動習慣が身体的・精神的健康に及ぼす影響について、防衛体力を中心とした測定・調査を通して科学的に検証し、健康の保持増進に資する運動の必要性を明らかにしていく。
	また、本学の特色を踏まえ、スポーツ選手のコンディショニングや、運動部活動に参加する生徒の防衛体力・健康状態の分析を行い、運動部活動の教育的・健康学的意義およびその課題についても検討する。これらの研究を通じて、学校保健・健康教育・スポーツ活動を相互に関連づけ、子どもの健康づくりを総合的に理解するための新たな知見を生み出すことを目指す。
	①健康の保持増進を目的とした運動の効果に関する研究（生活習慣病予防等）
	②子どもにおける体育・スポーツの必要性に関する研究（生活習慣、運動習慣、防衛体力、免疫能、健康感、メンタルヘルス等）
	③子どもの健康管理・健康教育・健康対策に関する研究
	④学校保健およびヘルスプロモーションに関する研究
	⑤健康およびメンタルヘルスの観点からみた運動部活動に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 鈴木 康介 博士（スポーツ科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：体育科教育学、スポーツ教育学、教材開発、運動指導
	(1) 体育科の学習指導に関する研究 ① 体育の授業づくり、教材づくり、教材構成に関する研究 ② 体育における運動指導に関する研究 ③ 学校における教科横断的な学びに関する研究 (2) 幼少期における運動指導に関する研究 ① 幼少期の子どもの動きに関する研究 ② 教育課程内・課程外における子ども（幼児・児童・生徒）の運動指導に関する研究
★★ 准教授 寺岡 英晋 博士（教育学）	研究分野：スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、教師行動、学習成果、評価、教師教育、国際協力、卓球
	学校体育・スポーツ活動が多様な教育課題の解決にどのように貢献できるかを探求することを主なテーマとしています。 具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。 ①教師行動の測定と評価 ②児童生徒の社会・情意領域の学習成果を生み出すメカニズムの解明 ③教師の資質向上を図る教育プログラムの開発と評価 ④カリキュラム分析と国際比較 ⑤ 体育・スポーツを通じた国際協力に関わる研究 上記以外にも、教育学的研究で関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 教授 野井 真吾 博士（体育科学）	研究分野：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学
	研究内容のキーワード：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学、子どものからだ、子どもの体力、子どもの健康
	キーワードは、「子ども」「からだ」「心」「体力」「健康」「元気」「生活」。 研究領域は、教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学。具体的には、子どものからだ、心、体力、健康、元気、生活が「どこかおかしい」、「ちょっと気になる」、「なんか心配」といった保育・教育現場の教諭や養護教諭、さらには、子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに、子どものからだにこだわってその“事実”を明らかにし、“実体”を追究する活動（問題を発見するための研究）と、発見された健康課題を改善し、子どもの元気を具現化するための活動（問題を解決するための研究）とに努めている。

■コーチング科学学位プログラム（コース毎・50音順）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 伊藤 雅充 博士（学術）	研究分野：コーチング学、コーチ教育
	研究内容のキーワード：アスリートセンタードコーチング、コーチ教育、コーチデベロッパー
	我々の研究室では、アスリート・センタード・コーチングをキーワードとして学習者中心の指導のあり方を研究している。研究テーマはコーチングのWHAT（アスリートを対象にした研究）ではなく、コーチングのHOW（コーチを対象にした研究）である。研究手法として質的研究および量的研究、あるいはその両方を組み合わせた混合研究法を採用する。博士後期課程においては将来のコーチデベロッパー、あるいはコーチ教育者として自身のスキルを磨くことも行う。

教員名	研究指導領域
★ 教授 大石 健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルデバイス、GIGAスクール、DX
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」と「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」の2つになります。両研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルデバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡単に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりデバイスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。
★★ 准教授 佐良土 茂樹 博士（哲学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング学原論、コーチング哲学、コーチ育成、バスケットボール、マインドスポーツ（将棋）
	コーチングはそもそものような営みであるのかを考える原論の研究、コーチが持っている哲学についての研究、および、コーチの学びを中心とするコーチ育成やその学びを支援するコーチデベロッパーについての研究を行っています。また、近年はコーチングに関わる概念、さまざまな思想に基づいたコーチングのあり方、コーチの生き方についても研究を進めています。基本的にスポーツ全般を研究対象としていますが、特にバスケットボールに関する研究を専門としています。
★★ 教授 杉田 正明 博士（学術）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：スポーツ科学を活用したコーチング、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析
	より効果的なコーチングの実践に活かすため、競技スポーツ選手の運動パフォーマンスを高める体力要因やコンディショニングのプログラムを開発するとともに、様々なトレーニング法やその効果について、主としてスポーツ生理学的な手法を用いた研究や様々な競技のパフォーマンス分析を行っている。それらを通して、コーチングに資するスポーツ科学の実践研究を行う。
★ 准教授 高井 秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、リラクセーション
	アスリートの競技力向上や実力発揮を目指した、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングに関する実践的研究に取り組んでいます。特に、ストレスの対処方略として活用されている自律訓練法や漸進的弛緩法、バイオフィードバック法などのリラクセーション技法の効果について検討しています。
★★ 教授 西山 哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。
★ 教授 南部 さおり 博士（医学）	研究分野：医学、法学、心理学、社会学、社会科学複合分野
	研究内容のキーワード：児童虐待、体罰、部活動の安全指導、学校事故、少年非行
	スポーツ危機管理学 スポーツにおける安全指導、スポーツ事故の原因分析と再発防止、体罰・パワハラ・暴言指導に関する研究、学校部活動のあり方に関する研究、学校体育における苦手克服・楽しい体育・安全指導、スポーツ指導者の資質向上、スポーツ活動が少年非行と犯罪に及ぼす影響など学校安全に関する研究 いじめ、ブラック部活動、教員の不適切指導、教育現場でのハラスメント、対教師暴力、不登校問題など児童虐待、親子関係が子の社会化に及ぼす影響に関する研究